

# HIT maker

Vol. 51

contents

- 令和元年度 第1回全学FDの報告
- 令和元年度 FD等行事一覧
- 私情協教育イノベーション大会での発表
- 前期 授業公開ウィークを開催
- 新任教職員研修(FD茶話会)の報告
- 特定の教職員向け研修(IRer養成講座)
- TOPICS

広島工業大学HIT教育機構  
HIT教育機構通信 第51号 2020年2月25日発行

## 令和元年度 第1回全学FDの報告

令和元年8月5日、「三宅の森Nexus21」603教室にて第1回全学FDを開催しました。第1部では「アセスメント・ポリシーの検証項目」についての説明が行われ、引き続いて第2部では広島大学高等教育研究開発センターの准教授 村澤昌崇氏をお招きして「アセスメントポリシー その背景・現状・課題と展望」をテーマに講演を行っていただきました。

### 【開会挨拶】



#### 学長 長坂 康史

本学では教職員の皆さんの協力を得ながら、ディプロマ・ポリシーに始まりアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと3つのポリシーをまとめ、公表してきました。そして今、4つ目のポリシーと言われるアセスメント・ポリシーが課題として取り上げられるようになりました。現在、まだ他大学でも目立った先行事例を聞くこと

はありませんが、いずれは必須となると考えます。本学としては、先行して取り組みを進めたいところです。アセスメント・ポリシーと言いましても、まだまだ大学によって、人によって捉え方に差がある状況です。そこで、本日の全学FDで、本学全体での意識統一を図り、一致団結して取組んでいけるよう、知識を共有していきたいと思しますので、よろしく願いたします。

### 【第1部】



#### 副学長 前原 俊信

第1部の冒頭で、まずは前原副学長から本学のアセスメント・ポリシーの総論について説明が行われました。広島工業大学では、「ディプロマ」「カリキュラム」「アドミッション」の3つのポリシーに基づいて、「機関レベル」「教育課程レベル」「科目レベル」の3段階で学修成果達

成状況を検証すること。その検証結果によって、ディプロマ・ポリシーで定める能力を有する学生を輩出できるように、教育の改善を組織的・継続的に行うこと。以上が総論として定められています。前原副学長からは、この総論について改めて概要説明があり、続いて行われる検証項目の説明への導入となりました。

アセスメント・ポリシーの検証項目 大学運営会議、HIT 教育推進部会  
アセスメント検討・運用 WG リーダー

#### 教授 宗澤 良臣

次に、アセスメント検討・運用WGリーダーを務める宗澤先生が登場し、プロジェクターを使いながらより詳細な説明が行われました。まずは一般的なPDCAサイクルに倣ってアセスメント・ポリシーの位置付けがなされました。それによると「Plan」はアドミッション・カリキュラム・ディプロマの3ポリシー、「Do」は講義や学生指導、そしてアセスメント・ポリシーは「Check」に必要なものであり、

その検証結果によって「Act」=改善の程度を検討する、というのが1サイクル。これを積み重ねることでスパイラルアップを図り、より高い目標に到達する、という分かりやすい説明でした。次に3ポリシーと「機関」「教育課程」「科目」の3レベルの相対表を用いて具体的な検証項目の紹介があり、それぞれの現況について実際のデータを一例として示しながら問題点や要検討点についても説明が行われました。そしてこれら検証項目のデータを必

要な時に一覧できるシステムを、今後アセスメント検討・運用WGが中心になって整備していく旨が発表されました。



